

## 6. 歩行者の交通事故

全交通事故の発生件数が減少している中で、歩行者事故の割合は増加し、死者数も増加しました。歩行者事故で亡くなった9人のうち5人が道路横断中に交通事故に遭って亡くなっています。

- ★ 歩行者は道路横断の際、「手を上げる」「体向ける」「会釈をする」等の方法で横断する意思をドライバーに明確に示しましょう。これを「渡るよサイン」といいます。
- ★ 歩行者側の「信号無視」や「飛び出し」といった交通違反が交通事故の原因になっている場合があります。自分の身を守るためにも交通ルールを守りましょう。
- ★ 夜間外出する際は、明るい服装を心掛け、反射材や携帯式のライトを活用しましょう。

[ 歩行者事故発生状況 ]

(単位：件、人)

	H30	R1	R2	R3	R4
全事故件数	1,651	1,485	1,320	1,221	1,196
発生件数	247	232	250	224	222
死者数	14	4	6	5	9
全事故に占める歩行者事故の割合	15.0%	15.6%	18.9%	18.3%	18.6%



「渡るよサイン」の紹介動画はコチラ▶



## 7. 自転車の交通事故

令和4年は、自転車の交通事故発生件数、死者数、対歩行者事故件数すべてが前年と比較して増加しました。健康意識の高まりや環境への配慮、新型コロナウイルス感染症の影響で、自転車利用者が増えてきている中、自転車利用者の交通ルールの遵守、マナーの向上が求められています。自転車乗用中に歩行者と衝突する事故が全国的に発生しており、高額な賠償が発生することもあります。

- ★ 自転車は車両の仲間です。交通ルールを守りましょう。
- ★ 万が一の交通事故に備えて自転車保険に加入し、ヘルメットを着用しましょう。  
※令和4年10月1日から自転車保険の加入が義務化されました(「新潟県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」により)。  
※令和5年4月1日から全ての自転車利用者にヘルメット着用が努力義務になります(道路交通法の一部改正により)。

[ 自転車事故発生状況 ]

(単位：件、人)

	H30	R1	R2	R3	R4
全事故件数	1,651	1,485	1,320	1,221	1,196
発生件数	259	234	228	186	192
死者数	6	1	0	1	4
全事故に占める自転車事故の割合	15.7%	15.8%	17.3%	15.2%	16.1%
対歩行者事故件数	6	2	4	2	7



自転車保険に関するフローチャートはコチラ▶



## 8. 飲酒運転の根絶

新潟市では、いまだに飲酒運転による交通事故が発生しています。飲酒運転の根絶には、ドライバー本人だけでなく、家庭・職場・飲食店など周囲の皆さんの強い気持ちと協力が不可欠です。「飲酒運転は絶対にしない、させない、許さない」を徹底し、飲酒運転を根絶しましょう。

[ 飲酒事故発生状況 ]

(単位：件、人)

	H30	R1	R2	R3	R4
全事故件数	1,651	1,485	1,320	1,221	1,196
発生件数	22	18	13	12	15
死者数	1	0	1	2	0
全事故に占める飲酒事故の割合	1.3%	1.2%	1.0%	1.0%	1.3%



～安心・安全な新潟市を目指して～

悲惨な交通事故を減らすためには、みんなで交通安全意識を高めることが大切です。

家庭や学校、職場から地域へ、交通安全の輪を広げ誰もが安心して生活できる新潟市を実現しましょう。

令和4年  
新潟市

# 交通事故概況

安心・安全な新潟市を目指して

～高齢者被害の交通死亡事故が多発～

令和4年中、新潟市内では、交通事故で16の方が亡くなり、そのうち13の方が65歳以上の高齢者でした。

交通事故を防ぐために

 **ドライバーのみなさん**

横断歩行者の保護は、ドライバーの義務です。横断歩道を渡ろうとする歩行者がいたら必ず止まりましょう。交差点では速度を落とし、安全確認を徹底しましょう。

**歩行者のみなさん**

交通ルールをしっかり守り、交通事故に遭わないようにしましょう。道路横断の際は「手を上げる、身体を向ける」等により横断する意思を明確に示し、車が止まったことを確認して横断しましょう。

みんなで、悲惨な交通事故を無くし、安心・安全な新潟市を実現しましょう。

 **新潟市**

市民生活部 市民生活課 安心・安全推進室 TEL 025-226-1113

各区交通  
安全担当課

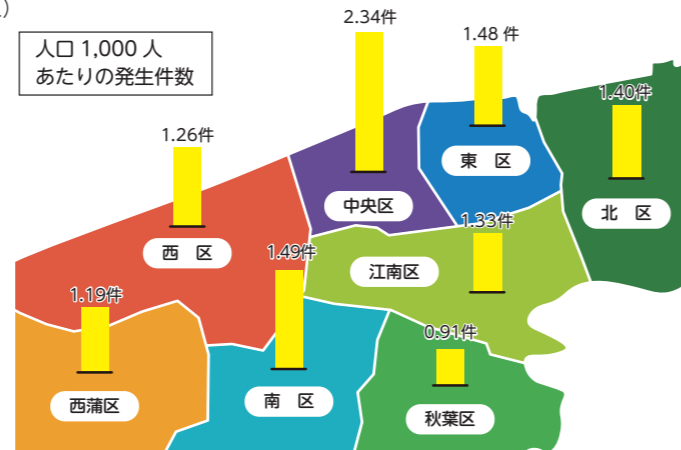
北 区 区民生活課 (025-387-1295) 秋葉区 地域総務課 (0250-25-5470)  
東 区 総 務 課 (025-250-2720) 南 区 地域総務課 (025-372-6431)  
中央区 総 務 課 (025-223-7064) 西 区 総 務 課 (025-264-7120)  
江南区 区民生活課 (025-382-4254) 西蒲区 地域総務課 (0256-72-8129)

# 1.新潟市の交通事故発生状況

新潟市では、令和4年中に1,196件の交通事故が発生し、1,368人が負傷、16人の尊い命が失われました。

[ 市内の交通事故発生状況(令和4年) ] (単位: 件、人)

区別	発生件数	死者数	負傷者数	重傷者数
北区	100	5	116	17
東区	194	2	210	30
中央区	419	4	471	56
江南区	90	3	100	14
秋葉区	67	1	77	11
南区	63	1	77	13
西区	200	0	242	29
西蒲区	63	0	75	15
全市	1,196	16	1,368	185



## 交通事故発生状況の推移

新潟市内の交通事故件数は17年連続で減少しましたが、死者数は前年比6人増の16人と大幅に増加しました。また、負傷者数は17年振りに増加に転じ、一歩間違えると死亡事故になっていた重傷事故も多く発生しており、重傷者も増加しました。

[ 過去5年間の交通事故発生状況 ] (単位: 件、人)

	H30	R1	R2	R3	R4	増減率
発生件数	1,651	1,485	1,320	1,221	1,196	-2.0%
死者数	27	11	11	10	16	60.0%
負傷者数	1,949	1,760	1,515	1,366	1,368	0.1%
重傷者数	261	253	241	176	185	5.1%
負傷者数に占める重傷者数の割合	13.4%	14.4%	15.9%	12.9%	13.5%	

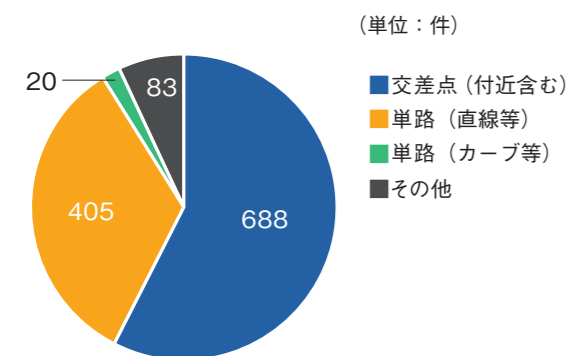
※重傷者とは、交通事故で1ヶ月(30日)以上の治療を要する傷害を負った者をいう。

## 2.交通事故の発生場所と時間帯

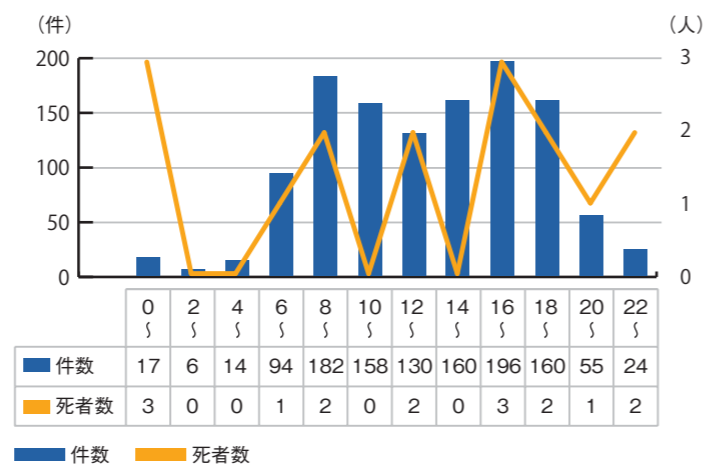
交通事故の発生場所は、交差点やその付近が全体の約6割を占め、その半数が出会い頭事故です。交差点以外では、脇見運転等が原因の追突事故が多く発生しています。また、時間帯別では8時から10時、16時から18時の間に多く発生しています。

★交通量の増える朝の通勤・通学時間帯や夕方の帰宅時間帯は交通事故が多発する傾向にあります。時間と気持ちにゆとりを持って運転に集中しましょう。

### 場所別発生状況



### 時間帯別発生状況

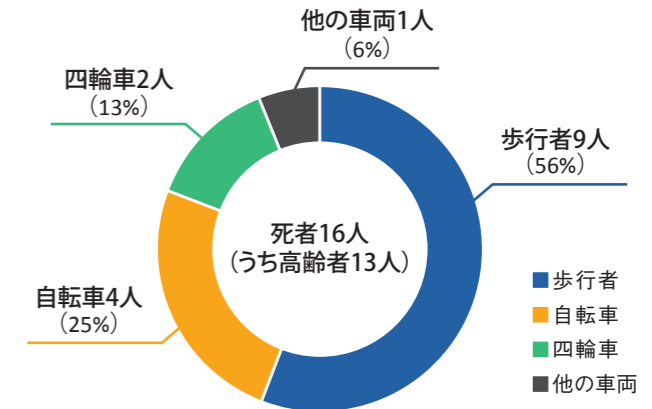


# 3.死亡事故

死亡事故は16件発生し、16人の尊い命が失われました。このうち、65歳以上の高齢者は13人と8割を超えています。状態別では、歩行事故が全体の56%と高い割合を占めます。また、自転車乗車中の4人のうち、2人が自損事故で亡くなっています。事故の原因の多くはドライバーの脇見運転や考え事等の漫然運転です。

- ★ドライバーのみなさんは、ハンドルを握ったら運転に集中し、歩行者や自転車等の早期発見に努めましょう。
- ★横断歩道での歩行者保護は、ドライバーの義務です。歩行者を発見したら必ず止まりましょう。

### 状態別死亡事故発生状況



## 4.高齢者の交通事故

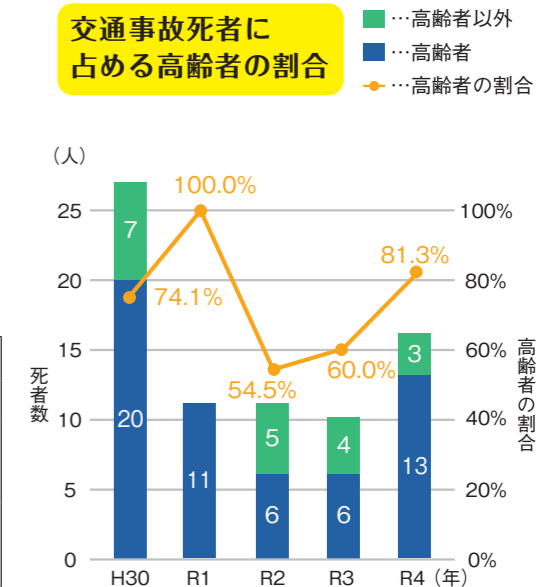
全交通事故の発生件数が減少している中で、高齢者事故は増加し、全死者に占める高齢者の割合も8割を超えています。高齢運転者事故についても、全事故に占める割合が増加傾向にあり、高齢者事故を減少させることが喫緊の課題となっています。

- ★運転に不安を感じたら自らの運転技術を見つめ直し、無理な運転は避けましょう。
- ★「慣れた道を通る 交通量の多い時間帯は避ける 明るい時間帯に運転する」といった補償運転をしましょう。

[ 高齢者事故の発生状況 ]

	H30	R1	R2	R3	R4
全事故件数	1,651	1,485	1,320	1,221	1,196
高齢者事故	639	587	563	457	491
全事故に占める割合	38.7%	39.5%	42.7%	37.4%	41.1%
高齢運転者事故	385	369	334	308	307
全事故に占める割合	23.3%	24.8%	25.3%	25.2%	25.7%

### 交通事故死者に占める高齢者の割合



## 5.子どもを交通事故から守ろう

令和4年中、子ども(中学生まで)の交通事故は55件発生し、58人が負傷しています。幼児は、車両同乗中に事故に遭っていますが、小学生、中学生になると、歩行中や自転車乗車中の事故が増えます。これは年齢が高くなるにつれて行動範囲が広がり、事故に遭う可能性が高くなるためです。

- ★「道路で遊ばない、道路に飛び出さない、交差点では必ず止まって安全確認をする」といった基本的な交通ルールを守りましょう。
- ★子どもは大人を見ています。かけがえのない子どもの命を守るため、大人が見本となって正しい交通ルールを守り、繰り返し教えてあげることが大切です。



### 年代別・状態別負傷者数

